平成 28 年 6 月 8 日　第 2455 号

# 営農NEWS

## ナシのナシヒメシンクイ第二世代幼虫の防除適期は県南・県西で 6 月中旬（第 4 半旬）頃、県央・県北で 6 月下旬（第 5 半旬）頃と予想されています

## 的確な薬剤防除を実施してください

ナシヒメシンクイは年間 3～4 世代を繰り返し、通常、**世代を重ねるほど発生量が多く**なって、ナシでは 7～9 月の密度が最も高くなります。樹皮の隙間や割れ目に作られたマユの中で越冬した老熟幼虫が 4～5 月頃に羽化し、その（越冬世代）成虫は主に果樹園近くのモモやウメなどに移動して葉裏や新梢に産卵します。そして、ふ化した（第一世代）幼虫が新梢などに食入し、モモやウメなどの芯折れ被害となります。その後、**（第一世代以降の）成虫は主にモモやナシ、リンゴなどの果実に産卵し、ふ化した（第二世代以降の）幼虫が果実内に食入します**。食入した幼虫は、穴から糞を出しながら中心部へ向けて果肉を食害します。成虫の生存期間は 5～12 日で、その間に産卵を行い、気温が高くなるにつれて産卵期間が短くなり、次世代の出現が早くなります。

病害虫発生予報 6 月号（県病害虫防除所）によりますと、5 月下旬現在、フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から、第一世代成虫の発生時期は平年並～やや早いと予想されています。また、越冬世代成虫の誘殺数は、地区予察圃（かすみがうら市）で平年より多く、地区予察圃（小美玉市）および土浦市で平年並、県予察圃（園芸研究所内）および地区予察圃（笠間市）で平年よりやや少ない状況です。

この結果、ナシにおける**ナシヒメシンクイ（第二世代）幼虫に対する防除適期**（第一世代成虫の誘殺最盛期の７～９日後）は**県南・県西地域で 6 月中旬（第 4 半旬）頃、県央・県北地域で 6 月下旬（第 5 半旬）頃と推察**していますので、「露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」に基づき、または、下記の有効薬剤を参考に、適期に**確実に薬剤防除を実施する**ようにしてください。

なお、ナシ果実の被害が大きくなる（第三世代）や（第四世代）幼虫については、通常は防除適期が前者で７月中～下旬、後者で８月中旬～９月上旬頃ですが、今後の気象条件等により年次変動しますので、これから発表される発生予察情報等を参考にして適期に適切な防除を行ってください。

なお、薬剤防除にあたっては 10ａ当たり 300ℓを目安に、かけむらのないように丁寧に散布してください。圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所は、手散布などにより補正散布を行うことが重要です。

表　ナシにおけるナシヒメシンクイ（シンクイムシ類で登録）の主な防除薬剤（平成 28 年 6 月 7 日現在）

| 薬　剤　名 | 希釈倍率 | 使用時期　／ 使用回数 |
|---|---|---|
| スプラサイド水和剤 | 1,500～ 2,000 倍 | （無袋栽培）収穫 21 日前まで／2 回以内<br>（有袋栽培）収穫 7 日前まで／3 回以内 |
| スカウトフロアブル | 2,000 倍 | 収穫前日まで ／5 回以内 |
| オリオン水和剤 40 | 1,000 倍 | 収穫 3 日前まで／2 回以内 |
| ＭＲ．ジョーカー水和剤 | 2,000 倍 | 収穫 14 日前まで／2 回以内 |
| ロディー水和剤 | 1,000～ 1,500 倍 | 収穫前日まで ／2 回以内 |
| バリアード顆粒水和剤 | 2,000～ 4,000 倍 | 収穫前日まで ／3 回以内 |
| ディアナＷＤＧ | 5,000～ 10,000 倍 | 収穫前日まで ／2 回以内 |
| ダイアジノン水和剤 34 | 1,000 倍 | 収穫 14 日前まで／6 回以内 |
| サムコルフロアブル 10 | 2,500～ 5,000 倍 | 収穫前日まで ／3 回以内 |
| アディオン乳剤 | 2,000～ 3,000 倍 | 収穫前日まで ／2 回以内 |
| スミチオン水和剤 40　※ | 800～ 1,200 倍 | （無袋栽培）収穫 21 日前まで／6 回以内<br>（有袋栽培）収穫 14 日前まで／6 回以内 |
| ハチハチフロアブル | 1,000 倍 | 収穫 14 日前まで／2 回以内 |

**農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。**

全農　JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040